

就任のご挨拶

2021年6月25日

東京製綱株式会社

代表取締役社長 原田 英幸

「135年目の改革のために」

この度、浅野前社長からバトンを受け代表取締役社長職を引き継ぐこととなりました。30年以上にわたる当社並びに海外拠点等での経験を生かし、株主様、お客様、従業員をはじめとするステークホルダーの皆様方のご期待にそえるよう全力で取り組む所存です。

当社は現在、大きな節目を迎えております。2020年3月に終了した前中期経営計画は大幅未達となっており、また、新型コロナウイルス感染症の影響もあつたとはいえ、当社の抱える構造的課題に十分に取り組むことができないまま、その後1年以上、新たな中長期経営計画を策定できずに今を迎えております。

私の役目は当社に新たな成長のための道筋をつけることです。当社が本来持っているポテンシャルを引き出す事ができれば、企業価値の回復・向上を早期に実現することができるはずであり、それこそが私の使命だと考えています。

具体的には、直ちに当社の各事業におけるこれまでの取り組みを振り返り、構造的課題を確認し、新たな中期経営計画の立案に着手いたします。そして、構造的課題については徹底した対策をとり、また、成長可能な事業についてはこれを伸ばす措置を講じて参ります。中期経営計画は可能な限り迅速に策定することとし、上期末には何らかの取り纏めを行ない、公表することといたします。

当社は今般、経営体制・取締役会構成を刷新しました。これは、持続的な成長を着実に推進する観点から、執行を担う社内取締役の世代交代をはかるとともに、取締役の過半数を独立社外取締役とすることにより、コーポレートガバナンスの抜本的強化を図ったものです。

新たな執行体制においては、技術開発・営業・環境対応・海外事業・コーポレート機能などの各方面において、当社事業に精通している優秀な人材を充てました。また、各方面で識見豊富な独立社外取締役には、経営への助言及び監督機能の面で、当社の今後の改革を強力にサポートしていただくこととなります。

東京製綱には135年をかけて培ってきた、卓越した技術力、ブランド力、チャレンジ精神があります。当社の創業会長である渋沢栄一の進取の気性に倣い、今までの取り組みを活かしながらも、正すべきものは正すことにより、東京製綱を新たな成長軌道に乗せるべく、「135年目の改革」に着手いたします。

各方面のステークホルダーの皆様方との「共存共栄」を実現すべく、社長である私が自ら先頭に立ち全社一丸となって取り組んで参りますので、皆様方におかれましては倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

以上